

# 国会審議「慎重に」

## 参考人質疑 与党支持者からも

さいたま市と那覇市。安保関連法案をめぐる地方参考人質疑があった二つの会場では、与党支持者からも、国会での慎重審議を求める声があがった。

▼一面参照

両市のホテルに設けられた会場には計160の傍聴席が用意された。傍聴券は、法案を審議している衆院特別委員会委員の所属会派の議席数に応じて、自民102枚、民主24枚など事前割り当てられた。与党陣で傍聴した人々からは法案を支持する声が多く聞かれた。地元の自民党衆議院議員から券をもらった、さいたま市の無職男性(82)は「集団的自衛権がないと日本を守りきれない。賛成せざるを得ない」と言う。念頭にあるのは、尖閣諸島で領海に侵入したり、南シナ海で海を埋め立てたりしている中



国だ。那覇市の主婦(69)も中国公船のニュースに不安を覚えるという。「戦争法案」と言う人もいるけれど、国民を守るための大事な法案。(成立したら)ほっとします」ただ国会内外での議論や説明が尽くされていないという意見は少なくない。公明党の沖縄県本部幹事長をつとめる金城勉県議は「沖縄は地上戦の経験があり、法案への警戒感は大い。米軍や自衛隊がどう展開されるのか。丁寧な説明がもっと必要だ」。さいたま市議会は先月中旬、法案の慎重な取り扱いを求める意見書を全会一致

## 「予定調和で終わった印象」

### 傍聴の20歳大学生は

米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の同県名護市辺野古への移設計画などについて、若い世代で語り合う活動を続ける名桜大(名護市)3年の玉城愛さん(20)に那覇市での質疑を傍聴してもらい、感想を聞いた。



衆院特別委の地方参考人質疑を傍聴する玉城愛さん(那覇市)

実のある議論を期待していたのですが、予定調和で終わったという印象です。自民、公明両党の国会議員は、自分と考えが同じ参考人にだけ質問していました。野党側は逆の立場の人にも聞いていたが、もっと具体的な事例に踏み込んでほしい。安全保障関連法案や普天間移設について、考え方が違う人たちが向き合えないと、理解は深まらないと思いました。私が住む沖縄県うるま市には米軍基地があり、米兵の交通事故を何度

も見ました。母校の宮森小学校ではかつて、米軍の戦闘機が墜落して、多くの児童が亡くなりました。基地が集中する沖縄と今回の法案がつながっていることは、質疑を聞いて改めて実感しました。自衛隊の活動範囲が広がれば、米国の戦争に巻き込まれ、沖縄が狙われかねない。私自身はそう思うので、法案には反対です。「基地があるから沖縄の経済は成り立っている」「基地がないと中国が攻めてくる」。普天間の辺野古移設賛成の人からは、こうした意見をよく聞きます。私はそうは思いません。きょうの質疑を通して、安保法案の是非とともに、そうした議論も深まればよかったです。が、残念です。(聞き手・西水麻信)

共産党を支持する無職平山武久さん(73)は航空自衛隊入間基地(埼玉県狭山市など)の近くに住む。「法案が成立すれば、騒音が増えるだろう。法案は違憲だ」という声を、国会は正面から受け止めるべきだ」傍聴券が手に入らず、会場に入れなかったさいたま市の農業神部勝秀さん(71)は「実質的には密室の議論。強行採決の口実作りだ」と批判した。

勉強会での発言  
基地問題「無理解」  
琉球新報前社長  
野党の推薦で意見を述べたのは、琉球新報の前社長、高嶺朝一さん(71)。自民党国会議員の勉強会で出席者や講師らが報道機関への威圧的発言を繰り返したことに、民主主義の基盤を奪うもの」と厳しく批判した。

年に琉球新報に入社。編集局長や論説委員長を務め、記者生活の大半を基地取材に費やした。それだけに勉強会での発言は、沖縄の基地問題への「無理解」が目についたという。「住民が後から基地周辺に来た」「米兵より県民の犯罪の方が多し」という発言を「占領者が組み立てた考え方」と切って捨てる。この日の質疑では「国会議員や著名な作家がまことしやかに言うこと自体、非常に恥ずかしい」と述べた。米軍統治下で、土地の接収から米兵による犯罪や事故まで、住民の権利が踏みにじられる様子を見てきた。安全保障関連法案について「国民の基本的な権利を侵害する」と反対した。質疑終了後、高嶺さんは感想をこう語った。「法案に賛成する参考人も、報道への圧力には反発の声を上げてくれた。心強い」